

平成28年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立柏ヶ谷中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 相手や状況に応じた敬語の使い方に定着が見られます。
- 漢字を書くことに関して定着が見られます。
- 語句の意味を比較的理解し、文章の中で適切に使うことができます。

《努力を要する所》

- 「話す・聞く」の領域では話の展開などを聞き、自分の考えを広げること課題があります。
- 文章から自分の考えを書くことに課題があります。
- 漢字を正しく読む力に課題が残ります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「読むこと」の領域では、文章の構成や表現の特徴を捉えることに成果が見られました。これは朝読書の取り組みが表れていると考えられます。

《努力を要する所》

- 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があります。

これまでの取組から

- 現在、取り組んでいる「漢字の小テスト」を通して漢字の読み書きの定着に取り組んでいます。各学年ごとに繰り返し学習することで、日常生活の中で活用していけるように指導しています。

今後の具体的な取組について

- 文章や資料などを読んで、自分の考えを「書く」活動に意識を持って取り組んでいきます。また、討論やディスカッションの活動を増やし、相手の意見をしっかりと理解した上で自分の考えを述べる力を育てていきます。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」の領域における整式の計算、等式の変形などをよく理解しており、「数学的な技能」に優れています。
- 「図形」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に優れています。特に、三角形の合同条件など、証明に必要な基礎知識をよく身につけています。

《努力を要する所》

- 「関数」の領域における「数学的な技能」に努力を要します。反比例の理解不足による誤答が多くありました。
- 「資料の活用」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。特に「最頻値」などの数学的な用語の理解不足がみられました。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「関数」の領域における「数学的な技能」に優れています。特に、条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉えることに優れています。
- 「図形」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに優れています。

《努力を要する所》

- 「数と式」の領域における「数学的な見方や考え方」に努力を要します。特に、数量の関係を数学的に表現する力をつけることが必要です。
- 「資料の活用」の領域における「数学的な技能」に努力を要します。特に、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する力をつけることが必要です。

これまでの取組から

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用ができるように、2年時においては、習熟度別少人数指導を取り入れ、思考の過程を大切にしていることが、本校では効果が上がっている要因と思われます。

今後の具体的な取組について

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用を土台に、言語活動等を取り入れ、数学科の内容に即した思考・判断力を養っていきます。
- 「資料の活用」については、数学的な用語の意味を理解させるとともに、数学的に表現する力を養っていきます。

生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「家で、学校の授業の予習をしていますか」という質問に「している」「どちらかといえばしている」と肯定的な回答が46%で県や全国の平均を10ポイント以上上回る数値です。
- 「総合的な学習の時間に、課題を立て、情報を集め整理し、調べたことを発表する活動」に「取り組めた」と回答した生徒が多く、学校での調べ学習などに積極的です。

《課題と思われる所》

- 家で復習に取り組んでいる人は46%で、全国平均に比べてやや低い値です。家で予習も復習もあまりしない生徒がいることとなります。
- 「国語の文章で答える問題や、数学の言葉で説明する問題に最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合が全国平均より低く、書くことへの苦手意識があるようです。

生活について

《よかった所》

- 「朝食を毎日食べていますか」という質問に95%の生徒が食べていると回答しており、県・全国平均を上回りました。
- 「学級での話し合いで異なる意見や少数意見を尊重し、よく話あって学級の決まりを決めている」と肯定的な回答が県・全国平均より5ポイント以上上回りました。学級活動・学校行事に積極的に参加している様子がうかがえます。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に肯定的な回答が83%で、県・全国平均より5ポイント以上高くなっています。

《課題と思われる所》

- ゲームをする時間、スマートフォンなどを使用する時間が県・全国に比べて長い傾向があります。
- 「社会の出来事に関心ある」「ボランティアに参加したことがある」「新聞を読んでいる」などの項目で肯定的な回答が全国平均より5ポイント以上下回りました。

これまでの取組から

- 2、3年次に「総合的な学習の時間」に「平和学習」に取り組んでいます。生徒は調べ学習や発表に意欲的に取り組み、自信をつけてきています。
- 図書室が整備されてきています。朝読書の時間を続け、読むことだけでなく、書くことにも意欲を持つように学習活動の工夫を続けます。

今後の具体的な取組について

- 毎回の授業で目標を意識的に生徒に伝え、予習→学校での学習→復習が効果的にできるように、校内で研究・実践に心がけます。
- 定期テストまえの学習計画表や長期の休みの計画表作成を続け、生徒が自分の生活を振り返る機会を学級の時間などで設けます。

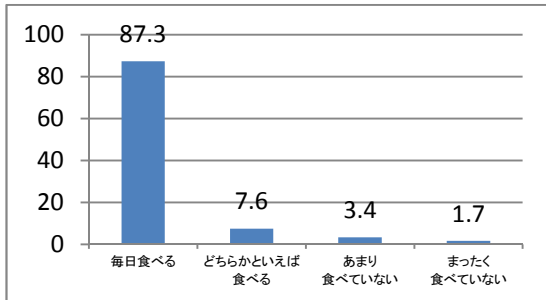
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 朝食を食べて、一日をスタートしましょう。

食べている生徒が多くいます。規則正しい生活習慣のために今後もサポートをお願いします。

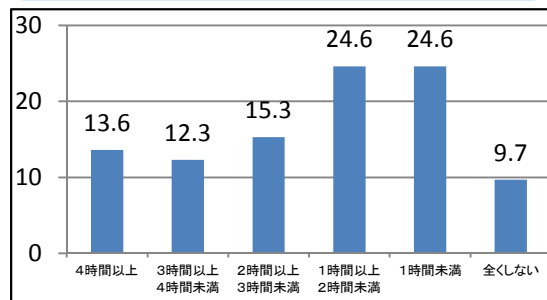
朝食を毎日食べていますか



2 ゲームの決まりごとをつくりましょう。

生徒の3人に2人は、スマホなどのゲームを一日1時間以上しています。ルールと時間を決めましょう。

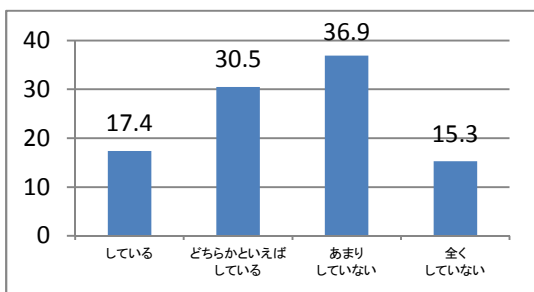
一日どれぐらいの時間ゲームをしますか



3 計画を立て、学習に取り組みましょう。

テスト前だけでなく、普段から計画を立て学習に取り組む習慣をつけましょう。

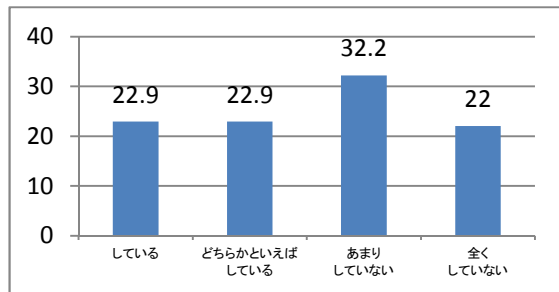
家で、自分で計画を立てて勉強していますか



4 工夫してバランスよく、予習・復習をしましょう。

予習に取り組んでいる生徒が全国平均より多くいます。

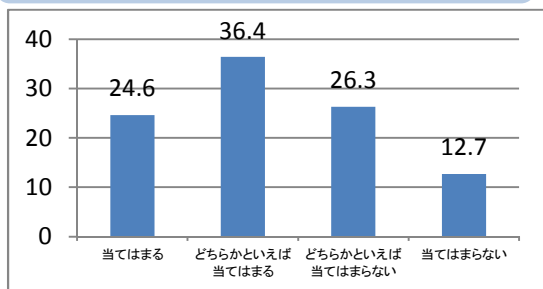
家で、学校の授業の予習をしていますか



5 地域や社会の一員として行動しましょう。

地域の行事にはよく参加しています。社会の出来事にあまり関心のない生徒がやや多いようです。

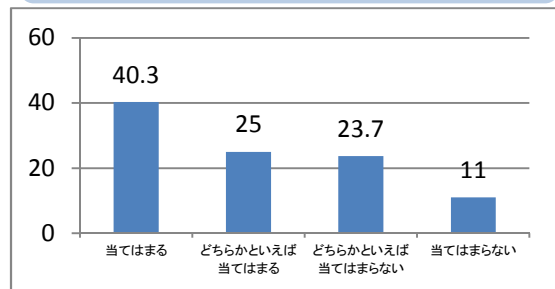
地域や社会の出来事に興味がありますか



6 将来の夢や目標を家庭で話題にしてみてください。

「どちらかという当てはまらない」と答えた生徒が全国平均よりやや多くいました。

将来の夢や目標を持っていますか





体育祭 綱引き

平成28年11月